SANJO ROTARY CLUB
三条ロータリークラブ 週報 No. 33
2024.3.6(No.3193)

ロータリーの心で
友情を深めよう

第2560地区ガバナー／米 山 忠 俊
会　　長／吉 井 直 樹
会長エレクト／渡 辺 良 一（クラブ奉仕A）
副　会　長／歸 山　 肇
幹　　事／小 林 吾 郎
S　A　A／野 水 靖 之
会　　計／梨 本 次 郎
直 前 会 長／西 山 徳 芳
会長ノミニー／柳 取 崇 之（クラブ奉仕B）

例会日／毎週水曜日12:30～
例会場及び事務局／
　三条市旭町2-5-10　三条信用金庫本店内
例会場／TEL 34-3311
事務局／TEL 35-3477　FAX 32-7095
E-mail：sanjo-rc@cpost.plala.or.jp
https://www.sanjorotary.site

■本日の出席会員数：55名中39名
■先々週出席率：74.07%

【ヴィジター】
・第4分区ガバナー補佐
　小出和子 様（三条東RC）
・ガバナー補佐スタッフ
　栗山正男 様（三条東RC）

【先週のメークアップ】
［2.29］三条東RCへ
・中村友昭さん、小林吾郎さん、
・山田富義さん、小越憲泰さん、
・中村和彦さん、石橋育於さん、
・松永隆夫さん
［3.2］RA地区大会（長岡）へ
・相場弘介さん
［3.2］米山記念奨学生終了式・歓送会（新潟）へ
・石黒良行さん
［3.4］8クラブ有志ゴルフ大会打合せ会（三条）へ
・杉山幸英さん、渡部　宏さん

世界に希望を生み出そう
2023～2024年度国際ロータリーのテーマ

「雪割一華（ユキワリイチゲ）」

会 長 挨 拶

吉井直樹 会長

会長挨拶を申し上げます。

本日は三条東RCより、小出ガバナー補佐、栗山さん、お二人よりお越しいただいております。ゆっくりお過ごしください。

さて、昨日より二十四節気の啓蟄になりました。私は節気のなかで、なぜかこの啓蟄の表記が一番好きです。冬の寒さを耐え、冬ごもりから目覚め、春の訪れを感じ、生物が地中から這い出てくる様子を表したものですが、喜びを感じるからです。

生物、とりわけ昆虫のことが気になるのですが、子供の頃、昆虫採取をしたことが思い出されます。セミやトンボ、蝶々など時にはカブトムシやクワガタも捕まえたりしていました。

でも、タイコウチやタガメは捕まえたことが無く、友人に見せてもらったときはたいそう驚き、うらやましく思ったものです。最近では田んぼにもなかなかオタマジャクシの卵なども見ることが少なくなりましたが、区画整理など圃場整備が進んだせいではないかと思います。

啓蟄の季節に、改めて自然との共生に想いを寄せてみたいと思います。

幹 事 報 告

小林吾郎 幹事

◎2024年3月のロータリーレートは、1ドル151円です。
◎米山ガバナー事務所より
「ガバナー月信 3月号発行のお知らせ」
◎地区米山記念奨学委員会より
「米山カウンセラー研修会のご案内」
日　時　3月30日（土）13：30～15：30
会　場　ANAクラウンプラザホテル新潟
◎三条北RCより
「市内4RC次年度会長・幹事会のご案内」
日　時　4月2日（火）18：30～
会　場　三条ロイヤルホテル
◎地区米山記念奨学委員会より
「米山記念奨学生オリエンテーション・
歓迎会のご案内」
日　時　4月20日（土）15：00～18：30
会　場　ANAクラウンプラザホテル新潟

ニコニコBOX

ガバナー補佐　小出和子様
大変お世話になり、ありがとうございました。

吉井直樹会長
ここのところ、2月と3月の気温がいれかわった様な感じがします。気温の変化に体がついていかないです。それでも元気に例会ができてうれしいです。
本日成田さん、卓話ありがとうございます。

荻根澤隆雄さん
3月16日は生涯に一度の50年目の結婚記念日です。此れも当クラブに入会36年の賜物と思っております。誠にありがとうございます。
成田さん、ご苦労様です。

成田秀雄さん
本日卓話をさせていただきます。つたない話ですがよろしくお願いいたします。

渡辺良一さん
今週土曜日にPETSです。いよいよです！
成田さん、卓話楽しみにしております。

長谷川正実さん
小出様、栗山様、ようこそ。
成田さん、卓話よろしくお願いします。

西山徳芳さん
三条市に職業奉仕で段ボールベッドを寄付させていただきました。
成田さん、卓話ありがとうございます。

早川滝徳さん、　歸山　肇さん、　野崎喜一郎さん、
渡部　宏さん、　佐野勝榮さん、　斎藤弘文さん、
渋谷政道さん、　石橋育於さん、　安達俊明さん、
小林吾郎さん、　野水靖之さん、　石黒良行さん、
小林卓哉さん、　金子俊郎さん、　明田川賢一さん、
小越憲泰さん、　嘉瀬一洋さん、　石倉政雄さん、
高橋俊樹さん、　柳取崇之さん、　清水泰生さん、
重山直明さん、　松永一義さん、　杉山幸英さん、
松永隆夫さん、　船越良則さん、　中林順一さん、
落合孝夫さん
成田会員、本日は卓話ありがとうございます。
お話楽しみにしております。

３月６日分　￥　85,000
今年度累計　￥1081,000

第４分区ガバナー補佐の小出和子様と、ガバナー補佐スタッフの栗山正男様より、今年度のご協力に対する御礼とご挨拶をいただきました。

100%出席賞（25年）小越憲泰 会員

「卓　話」

成田秀雄 会員

1957年（昭和32年）5月1日水曜日午前九時頃、三条市門前町552番地で私はお隣の産婆さん小島さんの手で取り上げられました。当時北三条駅から旧第四銀行三条支店に繋がる北三条駅通りはまだ砂利道で東武運輸の馬車が通っていました。

父は三条実業高校を卒業後東京の水戸工業で働き、帰郷後昭和29年3月に実家で成田乾一商店を開業、最初は大工道具、しばらくして自動車の搭載工具の卸を生業としていました。祖父は鑢を販売する傍ら、というよりほとんど片手間で祖母が頑張っていたようですが、漢学を勤しみ、占いの研究をしていました。筮竹、水晶玉などを使用していたようです。祖母は燕で生まれ若いころ徳富蘇峰先生にお使いし東京で生活していました。祖父と結婚するということで三条へ戻ったのですがそんな祖父でしたので、祖母はずいぶんと苦労したようです。徳富先生のところをお暇する際、徳富先生が祖母のために一筆書いてくださった書が我が家に飾ってあります。母は水戸工業創業者の長女です。父と結婚し三条へ嫁いできました。

1961年（昭和36年）1月、弟が誕生し我が家は6人家族となりました。そんな家族に囲まれて私は育ちました。

その頃には父の仕事も順調に回り始め、自宅に二人の男性が住み込みで働いていました。そのうちの一人は70歳で退職するまで会社のために頑張ってくれました。

自宅のあった北三条駅通りは当時はすごく広い道路に感じていました。今見ると一方通行の狭い道路なんですけど。近くに小出医院があり院長の小出先生にはかわいがってもらいました。少し歩いて大通りに出て左に曲がったところにスーパーマーケットのまるよしがありました。子供の頃の最初の記憶ではドラム缶を半分に切って伏せたような建物だったように思います

1961年（昭和36年）4月松葉幼稚園に通い始めた時、母親の方針でオルガン教室に通い始めました。卒園時にピアノ教室へ行くことを勧められましたが「イヤダイヤダ」と言ってオルガン教室だけでやめてしまいました。あの時ピアノを習っていればもっと音楽を楽しめたかなと少し後悔しています。三条小学校では4年生の時に器楽部に入りました。はじめはハーモニカ、2年目からコントラバスを担当しました。この時クラブの顧問は片桐先生と仰り優秀な先生でした。小学校5年生の時トッカータとフーガニ短調を演奏して全国大会まで進みました。

1970年（昭和45年）三条市立第三中学校へ入学。理由は忘れましたがブラスバンドへ入部しトランペットを担当します。2年生の時新潟県大会で優勝しました。この時の顧問は水野先生、この方も優秀な先生で三中ブラスバンドを全国レベルに引き上げました。

このころ吉田拓郎が登場します。私もフォークギターを買って学校の朝礼や文化祭などで演奏しました。中学3年の時仲間がエレキギターを買ってモップスの「たどり着いたらいつも雨降り」を学園祭で演奏したのを見てロックに興味を持ちました。その頃シカゴの長い夜が流行っていました。中学を卒業する頃仲間とロックバンドを作ることになり担当決めの時ジャンケンに負けてベースを担当することになりました。それ以来50年以上エレキベースと付き合っています。

1976年4月三条高校入学。教室でギターをかき鳴らしてた味田克己君とバンドを作ろうということになり2中で小太鼓を担当していた川崎清君と三人でロックバンドを組みました。この頃イギリスで絶大な人気のあったDEEP PURPLEの曲を演奏、後に1学年下の南クラブの銅谷先生をボーカルに加えて学園祭や厚生会館などで演奏しました。厚生会館ライブの時は午後から学校サボってライブの準備をしていました。

高校卒業後予備校生活を経て中央大学へ入学します。すぐに軽音楽同好会へ入部しバンド結成、ベースを担当します。この頃はもうプロミュージシャンになることしか考えていませんでした。そのうちオリジナルを演奏するようになりライブハウス出演と主にコンテストにも積極的に参加しました。早稲田大学のサンプラザ中野君らと同時期だったので2回ほどコンテストの決勝で顔を合わせました。残念ながら優勝はいつも向こうに持っていかれました。卒業後ライブハウスで共演したフィンガー5のメンバーの紹介で芸能プロダクションに所属、毎月四谷、新宿などのライブハウスで演奏していました。同じ事務所に『ソウルオリンピック』テーマ・ソング「Heart and Soul」を歌った浜田麻里さんがいて彼女のバックをやらないかという話が私のバンドに来ました。私は自分のオリジナルを演奏したかったので嫌だったのですが他のメンバーは乗り気でした。運命は突然戸を叩きます。彼女のデビューライブが新宿ロフトで行われる直前の1983年3月3日、私の父が脳溢血で倒れました。実はその二日後の3月5日に帰宅し今後どうするのか父と話し合う

約束をしていました。父が倒れた事に責任を感じた私は帰郷し、当時のバンドのメンバーは浜田麻里のバックバンドZEUSのメンバーとして音楽界に残りました。その翌年私は叔父がやっている水戸工業に入社しました。プロへの道は諦めましたが学生時代サークルで一緒だった家内とバンドを組み、1986年三条へ戻り翌年家内と結婚し、三条でそのままバンド活動を続けました。1995年頃、県央でも有名なドラマー、岡田隆君をバンドに迎えて本格的に活動開始しました。三条のみならず東京のライブハウスへも演奏に出かけていき1999年にはCDを製作しミュージックタームというレーベルで販売してもらいました。音楽雑誌にも掲載されたおかげでそれなりに売れ、海外のラジオ局でも放送されたと聞いたときは驚きました。

この頃から家内の先輩の影響で写真を撮り始めました。バンドは共同作業ですが、写真は自分一人で完結する事がのめりこむ大きな要因だったと思います。2002年、桐生工業社長の桐生君に誘われてコニカ主催のコンテストを兼ねた撮影会に出かけました。このコンテストで準特選を取ったのがきっかけでアートカメラの写真教室に通い、写真コンテストに応募するようになりました。アートカメラ主催のコンテストで金賞、分水花魁道中のコンテストで準優勝、2005年頃が最盛期で県展入選、二科展入選、写真家協会展協会展入選、そしてカメラのキタムラ春のフォトコンテスト2005でグランプリを頂きました。これは自分でも驚きました。ただこの頃からデジタルカメラが台頭してきます。フィルムの時は殆ど一発勝負で作品を作りましたが、デジタルになってからは後加工なんでも有りで撮影時の緊張感が薄れてしまったと感じました。土門拳の「絶対非演出の絶対スナップ」の言葉がどこかへ飛んで行ってしまった気がしてカメラへの興味が急速に薄れてしまいました。

声楽を始めたのは2007年、バンドでオペラ座の怪人のテーマを演奏することになりその時ボーカルをやっていた銅冶先生と奥様に「成田さんもコーラスをやっているのだから」と長岡のソプラノ歌手、五十嵐郊味先生の所へ連れていかれました。最初は発声や腹筋の使い方を教えてもらいながらコンコーネ1番から50番までを勉強しました。そんなあるときレッスン室の机の上にメダルが飾ってありました。五十嵐先生のご主人が東京国際声楽コンクールで本選入選なさった記念メダルでした。成田さんも来年出ると良いよとの言葉を真に受けて翌2013年から毎年いろんな声楽コンクールに応募し、徐々に上位入賞できるようになり、昨年四月ソレイユ音楽事務所主催日本歌曲コンクールアマチュア部門で優勝し、7月に代々木白寿ホールでの入賞者演奏会に出演してきました。また昨年10月の東京国際管弦声楽コンクール50歳以上の部で第2位となり5月6日六本木サントリーホールブルーローズで行われる入賞者演奏会に出演します。コンクール以外でも新潟クラシックストリート、三条市音楽祭、各種団体イベント等に出演しています。

家内と続けているバンドも積極的にライブ活動を続けています。三条と東京のライブハウスや三条市音楽祭での演奏が主ですが、一度大阪のライブハウスからも声がかかり遠征した事もあります。最近ドラムのメンバーが抜けて三条新聞社の日下部君がパーカッションで加わりました。形態は変わりましたがこれからも積極的にバンド活動を続けていくつもりです。

日本歌曲ににについて少し話してみます。昨年、日本歌曲コンクールに出場するため、何曲かその背景を調べました。コンクールで歌ったのは予選、本選合わせて4曲です。

九十九里浜、しぐれに寄せる抒情、母、木兎、この中から九十九里浜と、それに昔歌った石川啄木の初恋の2曲についてについて話します。

日本歌曲

昨年歌った日本歌曲

- 九十九里浜（詩：北見志保子 、曲：平井康三郎）
- しぐれに寄せる抒情（詩：佐藤春夫、曲：大中恩）
- 母（詩：竹久夢二、曲：小松耕輔）
- 木兎（詩：三好達治、曲：中田喜直）

九十九里浜

沖はるかに　荒れて浪たち　水平線
日の出近くして　海鳥飛べり

沖つ浪　みるにはるけし　思ふこと
五百重（いおえ）へだてて
わがなりがたし

わだつみの　太平洋に　まむかひて
砂濱白し　九十九里なり

この曲は変化するテンポと何度も転調するところがありコンクール受けする難しい曲です。最初の2節はダイナミックに、中間部は遥かな想いを込めて、最後は明るい未来を感じさせます。この作詞者は北見志保子であり、作曲は平井康三郎です。この2人が作った曲に「平城山」があります。この歌は北見志保子が家庭を捨て、道ならぬ恋におち、その心境を吐露した歌です。ここには北見志保子が自分の意思を成就しょうとする情熱が伝わってきます。この「九十九里浜」も、共通するものがあるように思えます。夫である橋田東声がいるが、自分より12歳も若い東声の弟子だった慶応大学生、浜忠次郎に恋をしました。それは無理やり引き裂かれ、浜はフランスへ留学させられました。志保子は傷心を

癒すため大正9年奈良に移り住み、その時の心境を「平城山」に詠いました。大正11年に橋田東声と離婚し、大正13年にはフランスから帰国した浜忠次郎と結婚しています。この「九十九里浜」は離婚後に詠んだものだと思われます。遠く隔てた浜忠次郎との恋を波を越えても成就すると云った気持ちを詠んだのでないかと感じます。白寿ホールで私が歌ったビデオがありますのでご覧ください。

日本歌曲では同じ詩に別の作曲家が曲を付けた曲が多々存在します。

その中のひとつが石川啄木の第一歌集『一握の砂』(第一部：我を愛する歌)に含まれています。函館の大森浜に腹這い、遠い昔の妻節子との初恋のときを思い出して歌った歌と解釈されています。

石川啄木の第一歌集『一握の砂』（第一部：我を愛する歌）

砂山の砂に腹這ひ
初恋の
痛みを遠くおもひいづる日

作詩者が同じで作曲家が別な曲（一例）

「初恋」・「砂山の」
詩：石川啄木 (Ishikawa Takuboku, 1886-1913)　日本
曲：越谷達之助 (Koshitani Tatsunosuke, 1909-1982)　日本
曲：山田太郎（詳細不明）

初恋の作曲者の越谷達之助は1931年、東京音楽学校師範科を卒業。第二次世界大戦後は、青山学院高等部に長年勤め、その傍ら同学院大学、短大講師を務めました。

砂山のは中村太郎が同じ石川啄木の詩に曲を付けたものです。

同じ詩ですがだいぶ雰囲気が違います。さわりを歌ってみますのでお聞きください。

今回、卓話を依頼され自分自身について話そうと決めた時、初めて自分の半生についてゆっくりと思い返してみました。忘れかけている事も多く、過去のアルバムをひっくり返したり、ネットで色々調べたり大変でしたが、自分自身を再び見つめなおす事ができて大変有意義な作業でした。この機会を与えてくださった杉山会員に感謝いたします。

ご清聴ありがとうございました。

自己紹介　生い立ち・バンド活動・写真撮影・声楽

1957年5月1日水曜日午前九時頃

出生地：三条市門前町552番地

隣の産婆さん、小島さんの手で取り上げられた。

あの頃の三条市

昭和38年の豪雪

昭和30年代の本寺小路

1961年（昭和36年）1月、弟が誕生

我が家は6人家族となる

祖父（熊作）
祖母（シマ）
父　（乾一）
母　（稔子）
私　（秀雄）
弟　（恒雄）

音楽とのなれ初め

・松葉幼稚園の時：
母親の方針でオルガン教室に通う。
卒園時、ピアノ習得を勧められたが「イヤダイヤダ」と言って断った。
あとで悔やんだが後悔先に立たず。

・三条小学校の時：
4年生時、器楽部に入部、5年生時からコントラバスを担当。
この年トッカータとフーガニ短調を演奏して全国大会出場。
顧問は片桐先生

・第三中学校の時：
ブラスバンドへ入部、トランペットを担当。
2年生の時新潟県大会で優勝。
顧問は水野先生、三中ブラスバンドを全国レベルに引き上げた。

拓郎との出会い-高校-大学時代

吉田拓郎の出会い:
中学2年時、フォークギター購入、
朝礼や文化祭などで演奏。

高校時代:
友人と三人でロックバンドを結成、
後に南クラブの銅谷先生をボーカルに加える
学園祭や厚生会館などで演奏

大学時代:
軽音楽同好会へ入部、ベースを担当。
ライブハウス出演とコンテストにも積極的に参加
早稲田大学のサンプラザ中野と同時期だったので
2回ほどコンテストの決勝で顔を合わせた。

カメラのキタムラ春のフォトコンテスト2005 グランプリ作品

大学卒業後-レイズイン時代-帰郷

大学卒業後:
芸能プロダクション「レイズイン」に所属
大学卒業直前にライブハウスで共演したフィンガー5のメンバーの紹介
アルバイトをしながら定期的に四谷、新宿などのライブハウスで演奏

浜田麻里との出会い:
同じ事務所に後に大ブレークする浜田麻里がいた。
彼女のバックバンドやらないかという事務所からの提案
私は自分のオリジナルを演奏したい、しかしメンバーは乗り気

父親の発病-帰郷:
1983年3月3日、父親が脳溢血で倒れる。
二日後の3月5日に帰宅し今後についての話合いの約束
私は責任を感じ帰郷
バンドのメンバーは浜田麻里のバックバンドZEUSのメンバーとして音楽界に残る
翌年、叔父の会社、水戸工業に入社

写真撮影との決別

デジタルカメラの台頭と高性能化

デジタルカメラのメリット
・撮影後の加工が容易
・フィルム枚数を気にせずどんどん撮影可能
・ライブビューでピント合わせが簡単

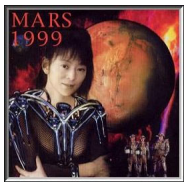
そのメリットによって写真撮影がつまらなくなった

フィルムの時は殆ど一発勝負で作品を作ったが、
デジタルになってからはフィルム枚数を気にせず撮影、
後加工何でも有りで撮影時の緊張感が薄れてしまった。

土門拳の「絶対非演出の絶対スナップ」の言葉が
どこかへ飛んで行ってしまった気がした。
カメラへの興味が急速に薄れてしまった。

水戸工業から成田乾一商店へ

プログレッシブロックバンドMARSの誕生
1885年　家内とロックバンドを結成
1986年　帰郷-成田乾一商店へ入社、翌年結婚
1987年　5月（株）ナリタ工業へ組織変更



MARS本格的始動
1995年　ドラマー岡田隆の参加
1998年　東京のライブハウスへ進出
1999年　MusicTermよりアルバム「1999」発売
音楽雑誌にも掲載
海外のラジオ局でも放送

声楽に目覚める

2007年、五十嵐郊味先生との出会い
三条南クラブの銅冶先生に長岡のソプラノ歌手、五十嵐郊味先生に
声楽を習いに行こうと誘われたのがきっかけ
最初は発声を教えてもらいながらコンコーネ1番から50番までを勉強。

2013年から声楽コンクールに応募
一発勝負の緊張感、終わった時の達成感が好き
徐々に上位入賞できるようになった。
2023年4月　ソレイユ音楽事務所主催日本歌曲コンクールで優勝
2023年10月　東京国際管弦声楽コンクール50歳以上の部第2位

コンクール以外でも新潟クラシックストリート、三条市音楽祭、各種団体
イベント等に出演。

写真撮影への傾倒

写真を撮り始める
1998年頃 家内の先輩の影響で写真を撮り始める。
バンドと違い写真は一人で完結する

2002年初めてのコンテスト入選
コニカ浪漫シンドローム写真コンテスト準特選
アートカメラ主催写真教室へ参加
三条RC渋谷カメラマンに師事

アートカメラ主催写真コンテスト金賞
分水花魁道中のコンテスト準優勝

2005年写真撮影の最盛期
県展入選
二科展入選
写真家協会展協会展入選
カメラのキタムラ春のフォトコンテスト2005　グランプリ

現在の音楽活動

MARS→MARSII
積極的にライブ活動を継続
三条市内イベントや三条市音楽祭での
演奏が主。
昨年ドラムの岡田君が抜けて三条新聞
社の日下部君がパーカッションで参加。

声楽
六本木サントリーホールブルーローズで
行われる東京国際管弦声楽コンクール
入賞者演奏会（5月6日）に出演予定。

次 週 例 会　　3月20日　　休会（春分の日）

次々週例会　　3月27日　　「外部卓話」
三条市教育長　髙橋誠一郎 様